

ARAKAWA BASIN NETWORK NEWS

流域情報

あらかわ



VOL.8

発行●NPO法人荒川流域ネットワーク編集委員会／編集人●鈴木勝行
住所●358-0046埼玉県入間市南峯400-4 FAX04-2936-4120
ホームページ●<http://www.arariver.org/>



紅葉の名栗川(飯能市上名栗)

写真提供・木崎芳雄氏(入間市写真連盟事務局長)

CONTENTS

- 1 思考—調査—試行—行動へのステップ
- 2 Network Information
上・中流域の身近な川のクリーンエイド実施情報
東京湾の見学と活動団体との情報交換会を開催
- 3 Network News
建設中の旧明戸サイフォンの床止めの現場を見学
荒川にまつわる歴史・文化・伝統を収めたDVDが完成
再生通信
「いい川・いい川」づくりワークショップで市野川での取り組みが準グランプリ賞に
- 4 いきものの道・魚の道
魚の行き交う川作りの課題と未来(前編)
- 6 森づくりの現場から Vol.7
発展人と自然の調和する心豊かなときかわ町をめざした里山保全活動
もりんど
- 7 ちょっと気になるトンボ Vol.4
アキアカネ
- 8 流域活動団体のイベント・カレンダー
2008年10~12月

「思考—調査—試行—行動へのステップ」

特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク代表 恵小百合

荒川流域ネットワークが上・下流の団体と共に組織した荒川流域再生プロジェクトが平成19年12月にスタートして10ヶ月、この間、何をすべきかを思考し、その中の主要なテーマとして「魚の行き交う一本の荒川」を再生しようという行動目標が設定され、様々な調査の元に、目標実現のための試行がなされた。

この目標を実現するために、どこが魚の移動を妨げているのか、ネックは何かについて調査をしてきた。それは、魚道

調査であり、荒川にかかる横断構造物である堰やダムなどであり、それらの堰やダムを利用している農業者やダムで発電している利用状況に関する調査をも含んでいる。

3月中旬頃東京湾から最初に遡上してくる「一番アユ」を上流へのほらせたい、という思いをどのように実現するのか、流域の専門家や市民が一生懸命調査し、研究者など専門家からのヒアリングや研修会を重ねて来た。

さらに、減少する荒川の中流・上流に



今年4月に秩父の横瀬川で行なわれた「マヤ床づくり」。作り方を指導する秩父漁協の方々

生息するウグイを増やすために、川の石を集めて、産卵床をつくる「マヤ床づくり」に協力し、以前は伝統的漁法として行なわれてきたその手法を、映像としてDVDに記録保存し、流域の多くの方と共有できるようにしてきた。

この活動は、秩父の環境を考える会の

荒川再生プロジェクトが地元の漁協の方から指導・協力を受けて進めているウグイの増殖事業に協力する形で進めてきたものである。

いよいよ、私たちは、荒川流域で何ができるのか、どのような手法で「魚の往

き交う川づくり」を再生できるのかを真剣に考え、取り組むこと、また、行動可能性とその実効性を検討する時期に来ている。効果的な行動と、実施による流域環境の再生効果が問われている。実際の河川管理者や河川利用者等

との関係、われわれ市民が試行する事柄の意味と、その効果の持続可能性などが今後きちんと検証されていく必要がある。そのための、特定非営利活動法人荒川流域ネットワークの行動が今、始まっている。

NetWork Information 1

上・中流域の諸団体の2008年度秋の身近な川のクリーンエイド実施情報

荒川流域ネットワークは、今年も下流の荒川クリーンエイド・フォーラムと連携して上・中流域でも秋の一斉清掃活動を10・11月に9ヶ所で実施することになった。

とくに本年度は、自然再生が計画されている荒川の太郎衛門橋下流の旧流路周辺でのゴミの調査と回収を周辺で活動している団体に呼び掛けて、一緒に行なうことを決定した。

上尾市の三つ又沼では、荒川の自然を守る会が主催した清掃活動が10月5日に行なわれたが、これから上・中流域の各地でクリーンエイド活動が実施される。これから実施される会場は以下の通りである。

各会場周辺の団体・企業・自治会・学校・個人の皆様の積極的な参加及び身近な川での清掃活動のクリーンエイド・フォーラムへの会場登録を是非お願いします。

- 秩父市 荒川・市営影森グランド前
日時 10月26日(土)10:00
主催 秩父の環境を考える会
連絡先 0494-22-0297(岩田泰典)
- 鶴ヶ島市 大谷川・藤金地区、五味ヶ

谷地区、太田ヶ谷地区

日時 11月1日(土)10:00
主催 大谷川クリーンエイド実行委員会
連絡先 049-285-6625(鈴木勝行)

●熊谷市 荒川・野鳥の森、見晴公園、日本ヒューム管前、村岡運動場、桜木小学校前、久下公民館前

日時 11月9日(日)9:00
主催 「第11回荒川の恵と熊谷の環境を考える集い」実行委員会、熊谷の環境を考える連絡協議会
連絡先 048-522-7097(新井千明)

●荒川太郎衛門自然再生地中池(川島町・桶川市)

日時 11月9日(日)9:00
主催 荒川流域ネットワーク
連絡先 049-285-6625(鈴木勝行)

●日高市 高麗川・清流橋周辺

日時 11月16日(日)14:00
主催 みずすましの会
連絡先 042-985-4515(島田和美)

●滑川町 市野川・羽尾地区高橋

日時 11月22日(土)9:00(小雨 決行)
主催:市野川水系の会(滑川町)



今年10月5日に行なわれた荒川の自然を守る会主催の三つ又沼でのクリーンエイド活動

- 連絡先 0493-56-3997(伊藤恭史)
- 鴻巣市 荒川・大芦橋、糠田橋、御成橋の各下流左岸
日時 11月23日(日)8:00
主催 鴻巣の環境を考える会
連絡先 TEL/FAX048-596-7787
090-3133-0903(川島秀男)
- 鳩山町 越辺川・石今橋周辺
日時 11月23日(日)10:00
主催 はとやま環境フォーラム
連絡先 049-296-0789(愛場憲嗣)

NetWork Information 2

12月7日にアユの稚魚が育つ東京湾の見学と活動団体との情報交換会を開催

荒川流域再生プロジェクトでは12月7日13:00から葛西臨海公園・鳥類園をフィールドに東京湾の見学会とみずかけ「サ」論を開催する。テーマは「東京湾から荒川へのお願い」。

東京湾の葛西臨海公園周辺はアユの稚魚が育ち、マハゼが産卵する所であり、冬季には数万羽のスズガモをはじめたくさんの野鳥が訪れる所でもある。また、近くには葛西水族園もある。

1時間ほどアユの稚魚が育つ干潟や野鳥たちを見学・観察した後、鳥類園のレクチャールームで東京湾をフィールドに活動している「葛西東渚鳥類園友の会」の飯田陳也さんや「ふるさと東京を考える実行委員会」の田中克哲さんに東京湾の現状について話をし、東京湾から見た荒川の生態系の関わりや水質について情報交換と討論会を行なう予定。

現在会場として予定しているレクチャールームは、屋内であるが暖房がないので、暖かい服装でおいで下さい。詳細については、049-285-6625/携帯090-7804-5722 鈴木勝行まで。



NetWork News 1

来年3月完成に向けて工事が行なわれている旧明戸サイフォンの床止めの現場を見学

今年7月17日荒川流域ネットワークが流域の団体と構成して進めている荒川流域再生プロジェクトが主催して、現在明戸サイフォンの撤去に伴って荒川本流で行なわれている床止めと魚道



の設置工事の現地見学会を行なった。

荒川上流河川事務所から工事を担当している職員が来て、事業内容、進ちょく状況等の説明をしてくれた。2008年3月の増水で工事が大幅に遅れ、7月の段階ではまだ魚道の設置は終了しておらず、完成は2009年3月ということだった。

今まで5m以上の壁になっていたサイフォンは取り除かれ、新たに180mの床止めの堰堤が

出来ていた。エプロンの下流端には流速を押さえるためのブロックが設置されていた。

ハーフコーン型魚道はまだ未完成だったが、幅6.5mの魚道が河道中央に1本造られることで、幾つかの課題はあるが、一応東京湾から玉淀ダムまでは、水系が繋がることになった。

床止め建設の必要性自体の問題もあるが、河幅が広いこと洗掘状況が激しいという河川環境を考えると床止めを設置した以上は、継続的な溯上調査を行ない、新たな魚道の追加や洗掘に対する対策が必要になると思われる。

NetWork News 2

荒川にまつわる歴史・文化・伝統を収めたDVDが完成

前号でも紹介させて頂いたが、荒川流域ネットワークでは、荒川流域の歴史や伝統、漁法などを集め、映像に収めてきた。現在まで①高麗川での投網を使った魚取り②桶川・北本地域での巨大客土農法「ドロツケ」③小鹿野町に

伝わる河原での雛祭り「オヒナゲエ」④秩父で行なわれてきたウグイの産卵床づくり「マヤ床づくり」の4つをDVDに収めた。

入手を希望される方は090-7804-5722



鈴木までご連絡下さい。会員は無料。非会員は有料で各500円。

他に②③④を1枚に収めたDVDもある。会員は無料。非会員は1000円。

自然再生 通信

第1回「いい川・いい川づくりワークショップ」で市野川での取り組みが準グランプリ賞に

●比企の川づくり協議会千葉茂樹

私たちが目指す川や水辺とは、どんなものか。そのビジョンやイメージを皆で自由に柔軟に探ろうとの第11回目となる「川の日・ワークショップ(以下WS)」は、名称を新たに9月27日~28日、国立オリンピック記念青少年総合センターで、同実行委員会の主催で開催された。

北海道から沖縄まで、全国から60団体が、自慢の川づくりの事例や事業・思いを持ち寄り発表(発表時間3分)。国土交通省、学識者、NPO等からなる選考員が、公開の場で素晴らしい視点や宝物を探し出し、全国に広めようというもの。川づくりは人づくり、川からプラス指向の明るい社会をつくらうとのエネルギーが伝わってくる出会いと感動の2日間であった。

直線化工事が進む市野川、どうしてよいか壁にぶち当たった市民数名が2年前の川の日・WSに相談にいった。こ

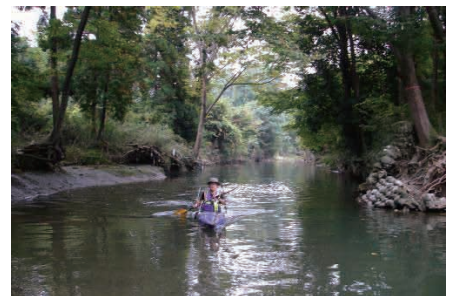
れがきっかけで、専門家の応援を受け、市民による計画見直し会議の開催、河川環境情報図の作成、計画変更の合意、市民によるモニタリング調査の開始などが実現。これらを「河畔林を流れるいい川 市野川 市民によるいい川づくり」と題して発表。

「多くの市民に勇気を与えた」「これからの一つのタイプ」「市野川モデルとして全国に広めたい」との評価をいただき、見事準グランプリ賞(2位)を頂いた。

地元3団体、新河岸川水系水環境連絡会、3名の専門家、埼玉県生態系保護協会、滑川町、歴代の埼玉県東松山県土整備事務所職員、コンサルタント、皆が一丸で取り組んだ血と汗の結晶である。

多くのヒントと勇気を得られるイベント。荒川流域で活動している市民、行政の方に是非、参加を広めていきたい素晴らしい21世紀型イベントである。

市野川の「いい川」づくり

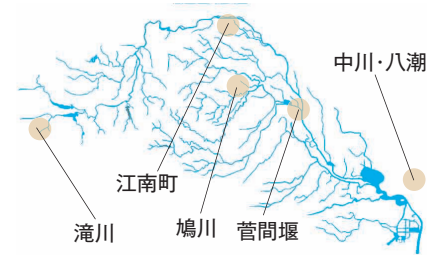


《経緯》河川整備が進んでいる市野川で羽尾地区には貴重な自然護岸と河畔林が残っている。1996年「市野川水辺空間整備計画」が策定された。2001年には行政と話し合う市民の組織「比企の川づくり協議会」が設立され、「比企流域懇談会」を開催して県の東松山県土整備事務所と協議を重ねた。県に対して当初の計画の根本的な見直しを求めたが良い回答が得られず、専門家に相談し、協力を受けられることになった。2006年8月に河川の専門家と新たな市民団体や住民団体が加わり、「市野川協議会」が発足し、市民が事務局をす協議会で計画の再検討が行なわれることとなった。(編集部)

第2回みずかけササ論『魚の行き交う川作りの課題と未来』●前編

■講演 金澤光(埼玉県環境科学国際センター)

下流から上流まで、様変わりする 荒川流域の淡水魚たちの生息状況



2008年8月に嵐山町の国立女性教育会館で行なわれたみずかけササ論での金澤光氏の講演を2回にわたって掲載。氏が永年続けてきた荒川や埼玉県の河川における調査は、魚類の現状を知る上で貴重な情報であった。

最近生息域を拡大しているヌマムツ、スゴモロコ、ウキゴリ

川を行き交う魚としては、海由来の魚だとアユ、ウナギ、サクラマス、マルタウグイ、ワカサギ、ハゼ類、スズキ、ボラなどがいる。とくに、荒川の下流域でよく調べてみると以外とワカサギが多い。

時期的にいうとアユが上る3月の中旬の前から産卵のために上ってくる。その一部が彩湖(荒川第1調節池)に入って大量に発生し、繁殖をしている。私は秩父湖で放流したワカサギの稚魚が流下して、彩湖に入ったものではないかと考えていたが、よくよく調べてみると実は東京湾から溯上してきたものであるということが分かった。

淡水域としては、コイ、フナ類、ナマズ、ウグイ、オイカワ、ヌマムツ、スゴモロコ、ニゴイなどコイ科の魚が殆どだ。その他、モクズガニ、ヌカエビ、テナガエビ、スジエビなどの甲殻類も上ったり、下ったりしている。

今私は、埼玉県内全域の魚の分布状況の変化を、魚類などの多様性モニタ



埼玉県内の分布状況の変化を説明する金澤氏

リング調査・研究をしている。過去の知見として私がまとめた時は、23科68種の魚がいた。その後1990～1994年の5ヶ年間調査した時は、20科64種の魚が見つかった。その後水産試験場において、いくら予算要求しても予算が付かなかったが、環境部に移動してから予算が付き、現在2005～2009年の5か年計画で生息分布の調査しているところである。

対象にしているのは、魚類・甲殻類・軟体動物(二枚貝など)・両生類・カメの仲間・触手動物(コケムシ)などである。対象としている河川は一級河川



と市町村が管理している河川。

その調査で分かったことだが、最近生息域を拡大しているのは、ヌマムツ、スゴモロコ、ウキゴリなどである。とくにウキゴリは生息範囲を広げ、下流域から中流の方に移行している。

溯上阻害物があったり、農業用水の取水などで移動できずにいる魚には、アユやメダカがいる。農業用水には現在もメダカがいっぱいいて、生息域は広く、過去の知見からも、なぜメダカが絶滅危惧種になるのか分からない。

極地的にしか棲んでいないアカザやギギ、カワアナゴ、スミウキゴリなどといった魚もいる。

最後に違法放流により分布しているものには、オオクチバス、コクチバス、



ヌマムツ



スゴモロコ



ウキゴリ



スミウキゴリ

ブルーギルなどの他、ここ10年位タナゴ類と二枚貝を抱き合わせにして、ゲリラ的な放流が比企丘陵などで行なわれている。今まで分布していなかった所にヤリタナゴがいたり、カネヒラやアブラボテがいたりしている。

ヌマムツは、以前はカワムツとっていたが、分類の基準が変わり、ヌマムツと言うようになった。特徴は、ヒレのところが赤くなることだ。

以前は越辺川の支流鳩川にかなり分布していたが、そこから増えて、高麗川には入って越辺川には入り、都幾川の鞍掛の堰に入り、そこから農業用水路を通して市野川に入り、荒川本線の熊谷まで分布を広げている。

この魚が広がるのが良くない理由は、オイカワと生息域がかなり重なってしまうことだ。鳩川などでは、今ま

でオイカワがいたところに優占種に置き換わっている。これは、国内の外来種といえる。

スゴモロコについては、1980年代に江戸川で繁殖している。それ以後荒川で確認されていて、菅間や秋ヶ瀬の堰の下流でかなり獲られて来た。荒川の熊谷まで遡上しているのが確認されている。将来的には寄居まで行き、最終的には県内全域に広がるのではないかと考えている。スゴモロコは食べて美味しい魚なので、是非捕まえたら食べてみて欲しい。

ムギツクについては、江南町の荒川で確認した。局地的にいるような魚で、毎年獲れるということで、県内に分布している魚に入れた。熊谷を上流端として下流では秋ヶ瀬ぐらいまでは生息していてもおかしくない。大きさは20cm位で、ペンシル・フィッシュという名前で、観賞用でも売られている。

アカザはギバチと同じような清流に棲む魚で、神流川周辺で確認している。

ジュヅカケハゼは、私が1985年に本庄市の志戸川で県内で始めて確認した。この魚が最近非常にたくさんいる。神奈川県と東京都では絶滅危惧種になっているが、埼玉県ではまだまだ広く分布している。オイカワが棲んでいる川であれば、中流から下流まで生息している魚である。

ウキゴリは、今までは吃水域にしか



ムギツク



ジュヅカケハゼ



アカザ

生息していないと考えていたが、取水堰の上流部にもいることが分かった。一番驚いたのは、入間川の菅間堰の上、越辺川から水を取っている中山用水や出丸用水の堰の上流に稚魚も含め、かなりいることだ。利根大堰の上流には大きい個体も生息している。これから分布を広げていくかどうかは、調査をしていかないと分からない。

カワアナゴは非常に面白い魚で、カワエビが産卵する場所にそれを捕食するために利根川をたくさん上ってくる。かなり獰猛な魚で、一度に大量に獲れる。

生息状況が大きく変化している 下流域や源流域の魚たち

下流域の魚もかなり様変わりしている。中川水系の八潮という所で河川工事をしたが、そこだけ干潟が残っていた。捕獲したのはハゼの仲間のアベハゼという魚である。比較的汚い所にもいるハゼだ。この魚が見つかった所で、ヨシ原には、クロベンケイガニが営巣し、魚類ではハゼ科のヌマチチブ、アシシロハゼ、シモフリシマハゼ、マハゼ、カダヤシ科のカダヤシ、メダカ科のメダカ、サンフィッシュ科のブルー



中川水系の八潮に残る干潟



▲アベハゼ



◀クロベンケイガニ



イワナを捕獲した荒川源流の滝川



捕獲したエゾイワナの特徴を持ったイワナ



秩父の在来種ニッコウイワナ

ギル、シマイサキ科のシマイサキの稚魚の生息が確認された。

シマイサキの稚魚がなぜ中川に上ってくるのか非常に興味深い。このような干潟は残していかないといけない。

次は荒川源流の話だが、現在源流域では白いイワナが獲れている。私が調査したポイントは豆焼橋の手前を3、4時間かけて上った所。2007年9月下旬に行った時のデータである。川は台風の影響でかなり荒れていた。

秩父にいる在来のイワナは朱色の斑のあるニッコウイワナである。私が見つけたのは、白いイワナであった。身体の斑の模様が白く、エゾイワナによく似ていた。釣れる個体は皆、白い斑のものだった。鰭の所の朱色の模様も欠けていた。腹びれも色に大きな違いがある。

これだけ源流域でも生態系が乱されているのは、最近支流で行なわれている伝統放流に原因があるのではないかと。源流の頭でエゾイワナを放流したのではないかと思う。

現在、エゾイワナが主流を占めていて、エゾイワナとニッコウイワナの交雑が進むと、元々いた在来のイワナがいなくなってしまうという可能性が高い。(以下次号)

町の身近な自然=里山を中心とした自然環境を次世代へ

もりんどは、ときがわ町の里山を中心とした自然環境や文化を学び・守り・伝え、人と自然が共存した豊かな町づくりを目指しています。里山を町の身近な自然と位置づけ、より良い状態で次世代に引き継ぐために、月一回の定例活動での[ときがわ町里山文化園]保全整備を中心に、ときがわ町の山や川で様々な活動を展開しています。

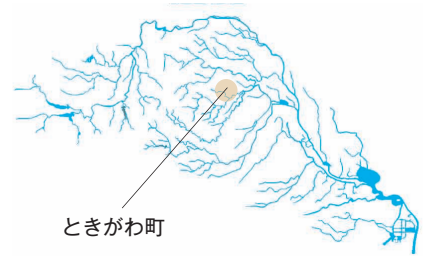
[ときがわ町里山文化園]は、ときがわ町の玉川地区にあり、「埼玉県ふるさとの森」に指定された鎮守の森を含め、様々な林(植生遷移観察林、手入れの異なる人工林や雑木林など)や溜池で構成され、広さ約32ha(うち公有地約3ha)の自然博物館のようなものです。

古文書などにより、江戸時代からの里山としての利用(秣場、焼き畑、薪

かしその後、行政の方向性の変化などにより、紆余曲折を経て[玉川里山もりんど]は、平成13年に解散し、[玉川里山もりんど]の主要メンバーで、新たな会の発足準備を始めました。同年に会員を募り、行政と対等の立場での協働や町全体の自然も視野に入れ、自主的な参加者が自立的に運営活動するNPOとしてもりんどが発足しました。

[ときがわ町里山文化園]では、当初行政が作成した基本計画が、いつの間にかうやむやになってしまったので、もりんどが現状を調査した上で作成した保全整備計画案を、行政に提案・協議し、その案にそって、もりんどが里山文化園内公有地の保全整備を進めています。

対応できる時間や人数に限りがある



夏に都幾川で開催する生物調査とカヌー体験



里山探検隊で丸太遊びの様子

森づくりの現場から Vol.7 もりんど

人と自然の調和する心豊かなときがわ町の発展をめざした里山保全活動



里山保全活動に取り組む(写真は山本氏)

炭林など)を、現在の地図に重ねる事ができる地域でもあります。

行政(当時は玉川村、現在合併してときがわ町)が、地権者や住民などの協力を得て、昔の美しく動植物の豊かな里山を復元し保全する計画で、平成11年に始めた事業です。

もりんどの発足は、少々複雑です。この里山文化園事業に賛同し、行政の呼びかけで参加した地域住民により結成された会[玉川里山もりんど]が、里山文化園の保全整備を始めました。し

山本 悦男 <もりんど>副会長

ので、その歩みは遅いのですが、案内板づくりや伐採、育苗、植林、落ち葉掃きなどを行い、管理の行き届いていなかった林を若いコナラの雑木林やアカマツ林へと更新しています。チェーンソーなどを使用する危険な作業もあるので、講習等をしっかり受けて作業を行っています。

[ときがわ町里山文化園]は、歴史的な変遷のわかる様々な林で構成されているので、里山を理解する学習や保全体験の場として、もりんどでも毎年大勢の人々を案内しています。

また、町内を流れる河川も、身近な自然を知る絶好の場所で、町内河川水質調査や川遊びなどのイベントを行っています。町内河川水質調査は、荒川流域一斉水質調査(荒川流域ネットワーク主催)の一環で、発足当時から毎年6月の行事として続けています。これは、

地域の川を見つめる良い機会なので、一般参加者と一緒に、町内を流れる都幾川、雀川、氷川など13河川の30カ所ほどのポイントで水質調査を行っています。

[都幾川で川遊びin ときがわ町]は、一人でも多くの人たちに、水辺の自然に関心を持ってもらおうと、8月に開催するイベントです。参加者全員で採取した生き物での水族館作り、ライフジャケットを身につけ浮いて流れたり、カヌーに乗ったり、潜ったりと盛りだくさんの川遊びで半日を過ごします。毎年、カジカやギバチなども確認され、町内外からの参加者でにぎわいます。

ときがわ町と協働した取り組みも行っています。里山の知恵や文化を再発見する里山入門講座や里山探検隊を、もりんどが企画し講師や指導者を派遣、教育委員会生涯学習課が主催事務局的な役割で分担し、それぞれ年に5~6回行っています。

里山入門講座は、主に大人を対象に里山再発見ハイクや里山保全作業体験

を行い、地域の歴史や文化と絡めて、里山の魅力を伝えます。

里山探検隊は、小学生を対象に里山文化園で木登りやネイチャークラフトなどを行い、遊びながら自然を身近なものにしていきます。電気も水道もない里山文化園の中での一泊二日のキャ

ンプでは、溜池から自分たちで釣り上げたアメリカザリガニを夕食の一品に添えるのが子供たちのお楽しみです。

ときがわ町は、かつて町内のほぼ全域が里山として利用され、現在も身近で豊かな自然として、その面影を色濃く残しています。一方で、その存在が

日常生活から遠のいているのも事実です。生物多様性国家戦略の中でも里山里山の保全は、主要テーマの一つになっています。ときがわ町でも、より多くの方が、地域の自然に関心を寄せ、知恵を出し合い、里山をいかした町づくりが充実することを願っています。

水田稲作とともに繁栄して来たトンボの危機

アキアカネは日本を代表する赤トンボである。ご存じだと思うが、赤トンボというのは、特定の種を表すのではなく総称である。一般的にはイトトンボを除く赤～オレンジ色をしているトンボ全般を指すが、専門家は、アカネ属に分類される種を赤トンボと呼ぶ。

アキアカネは主に田んぼに住むトンボである。水田稲作は縄文時代末期から弥生時代に日本に導入されたと考えられている。したがって、田んぼはアキアカネの本来の生息場所ではない。アキアカネの元々の生息場所は、河川敷に増水後に出来る一時的な水たまりだと考えられている。事実、荒川の河川敷に点在する水たまりから、本種の羽化が確認されている。

しかし、そのような水たまりは、毎年出来るとは限らない不安定な場所である。このため、水田が広まる以前には、アキアカネは珍しいトンボだったかもしれない。日本中至るところに水田が作られ、そのおかげで繁栄したトンボがアキアカネというのが大方が認める説である。

その昔、日本を「秋津島」と呼んだが、秋津とはトンボの古語で、あきつむし、すなわち秋にたくさん出る赤トンボ（つまりアキアカネ）を指す。



このように、アキアカネは日本のシンボルのような生き物なのだが、10年ほど前からアキアカネが激減しているようだ。その理由は定かではないが、水田に何かアキアカネが住めなくなるような“異変”が生じているのではないだろうか？ 水田というのは人為的環境であり、そこに住み着いた生き物は、人の都合により左右されることになる。水田耕作技術の進歩や土地改良工事により、水田の生き物は絶滅が懸念されている。トキやコウノトリから始まり、タガメやゲンゴロウなど多くの水田依存種が絶滅に瀕している。そ



アキアカネ

NPO法人むさし野里山研究所代表 新井 裕

んな中で、これまでアキアカネは環境変化に耐え、健在であった。ところが、1990年代後半から関西を中心に激減してきたのだ。これまでの情報収集から、北海道や栃木県、長野県、島根県などではあまり減少していないが、青森、山形、新潟、石川、愛知、兵庫などの県は激減しているらしい。どうも、

平地に広がる穀倉地帯を持つ県で減少傾向が著しいように思う。

では、我が埼玉県はどうだろうか？ 私の感覚では、これまではさほど減少していなかったのが、ここ数年で激減し始めたようだ。とくに今年は過去に例を見ないほど少ない。とはいえ、まだ秋になれば、県内全域でアキアカネの姿が見られる筈だ。

ただ、その数が減っているということである。

私は危機感を抱き、ここ数年県内の水田地帯でのアキアカネの発生状況を調べている。その結果、大里、比企、児玉、秩父などの郡や行田、加須などの水田地帯では、ほとんどアキアカネが羽化していないことが分かった。これらの地域では、田植えが6月上旬であり、水入れ時期が遅すぎるのが原因らしい。大宮、北川辺、幸手など5月上旬以前に田植えが行われる水田地帯では、羽化している可能性があるが、私は調べていない。つまり、少なくとも、羽化が見られない県北～県西北部の地域で秋に見られるアキアカネは、他の地域で羽化したものが飛来していることになる。

問題なのは、このような羽化出来ない水田に、毎年多数のアキアカネが産卵し、夥しい数の卵が死滅していることである。毎年このようなことを繰り返していれば、いなくなるのは当然である。アキアカネは、移動性が大きく、あちこちに分散し、適当な場所があると産卵する。そのおかげで全国に広がり、繁栄してきたとも言えよう。しかし、現在ではその繁殖戦略が裏目に出て、絶滅の道を歩んでいるのではないだろうか。

私は6月の田植えを5月に行えば、状況は好転すると考えている。しかし、田植えはアキアカネのために行うものではない。水利権や他の耕作物との関係もあり、田植え時期を変更することは容易ではない。また、田植え時期を早めれば、本当にアキアカネが羽化出来るという保証もない。しかし、手をこまねいていると、秋になってもアキアカネが見られない日がやって来るとは違いない。

▶ 流域活動団体 ◀ EVENT INFORMATION

●ちょっと出かけてみませんか



イベントについてのお問い合わせは
荒川流域ネットワーク事務所
●TEL&FAX 04-2936-4120
●E-mail:info@ara-river-net.jp
*連絡はできるだけFAXかmailでお願いします。

E…イベント **N**…自然観察会 **K**…保全活動 **C**…清掃活動 **S**…シンポジウム **L**…学習会

E 地域環境学習会 秩父市

内 容 ● 旧大滝村にある関所や斜面の畑など自然とともに暮してきた農村の風景を見ながら歩きます。
日 時 ● 2008年10月26日(日)9:00～15:00
集合場所 ● 秩父鉄道三峰口駅(車の場合:駅構内に有料駐車場)
持ち物 ● 雨具、飲み物、筆記用具
参加費 ● 1500円(資料代・昼食代)
主 催 ● NPO法人秩父の環境を考える会
問合せ ● 0494-24-4116(萩原良朗)

E 中津川溪谷・紅葉ウォーク 秩父市

内 容 ● 旧大滝村にあるこまどり荘周辺の森林の紅葉を見ながら歩きます。
日 時 ● 2008年11月1日(土)8:00～15:00
集合場所 ● 道の駅ちちぶ駐車場
持ち物 ● 雨具、弁当、飲み物、筆記用具
参加費 ● 100円
主 催 ● NPO法人秩父の環境を考える会
問合せ ● 0494-23-6404(坂本信夫)

K 里山保全と湖の水質調査 川越市

内 容 ● 今年も里山の保全体験をしませんか。里山でどのようにして枝が伐採され、保全されるのか?「パイオニアの森」で枝打ち体験し、また鎌北湖の水質がどのようになっているのか実際に検査する計画をたてました。奮って参加をお願いします。
日 時 ● 2008年11月2日(日)9:00～16:00
集合場所 ● 川越駅西口暫定自由広場(バスが待っています)
参加費 ● 1500円(保険代を含む)
参加予定 ● 40名
持 参 ● 弁当、飲み物、軍手、帽子、タオル、長靴など
主 催 ● かわごえ環境ネット
問合せ ● 環境ネット ツアー責任者村上(090-1202-5743) 市役所環境政策課(049-224-8811)
※雨天中止の場合は10月31日(金)午後4時に決定します。人数に制限がありますので、川越市外から参加する場合は確認をお願いします。

編集後記

年に4回の発行を目指していましたが、1ヶ月遅れになり待っていた皆様には申し訳ありませんでした。

8号からは全ページカラー印刷で制作することになりました。今まで写真家の木崎さんに毎回美しい写真を提供して頂いていながら、白黒でしか皆さんに見て頂けませんでした。これからはカラーのままでご覧頂くことが出来るようになりました。

新聞によると計画発表から42年間経て、川辺ダム計画が完全に白紙撤回されることになり、ダムに依らない治水計画の検討には入るそうで、どうやら川辺川を溯上するアユやアユに関わる人の暮らしや文化も救われることになりそうです。この転換が荒川でも積極的に生かされるといいですね。(鈴木)

E むさしの里山研究会のイベントガイド 寄居町

① ヒツジとおさんぽ!

内 容 ● 畑中を駆け回ってカードと同じ野菜を探して収穫してもらいます。昼食は薪で炊いた釜の飯と採れ立ての野菜を皆で畑で調理して食べます。ヒツジと遊び、昨年好評だったニワトリつかみ競争もする予定。
期 日 ● 11月3日(日)10:00～14:00
場 所 ● 皆農塾の農園/雨天中止

② 里山の収穫祭

内 容 ● ザリガニ釣り、田んぼ生き物公園の見学などを行い、一緒に食事をしましょう。メニューは新米を薪と釜で炊き、ザリガニ料理、キノコ汁、煮物、果物など盛りだくさんです。里山の秋の味覚をお楽しみ下さい。食事の後はコンサートです。
期 日 ● 11月24日(月)11:00～15:00
場 所 ● 里山ギャラリーノア/雨天実施
参加費 ● 各日ともに、大人1500円、子供1000円、幼児500円(昼食付き) コンサートのみの方は無料。
プログラムの詳細は当会のHPをご覧になるか、FAX: 048-581-4540または、mail:tombo2@d1.dion.ne.jpにてお問い合わせ下さい。

N 市民参加の荒川堤防植物調査 上尾市

内 容 ● 荒川堤防は首都圏の広大な草原。在来種と帰化植物がせめぎあっています。多くの昆虫も見られます。
日 時 ● 2008年10月26日(日)9:00～12:00
集合場所 ● 三つ又沼ビオトープ駐車場
参加費 ● 100円(保険代)
共 催 ● NPO法人荒川の自然を守る会
問合せ ● 048-726-1078(菅間宏子)

E 第3回自然塾三つ又「遊んで学ぼう」 上尾市

内 容 ● 秋の1日親子でサトイモ堀とパン焼きで楽しみましょう。親子参加をお願いします。(祖父母と孫も可)
日 時 ● 2008年11月8日(土)9:30～12:00
集合場所 ● 三つ又ビオトープ沼駐車場
参加費 ● 100円(保険代)
服 装 ● 手拭い、飲み物、軍手
主 催 ● NPO法人荒川の自然を守る会
問合せ ● 048-726-1078(菅間宏子)

K 草紅葉と冬鳥の観察と帰化植物退治 上尾市

内 容 ● 紅葉する草と三つ又沼に訪れる冬鳥を観察します。
日 時 ● 2008年11月16日(日)9:30～12:00
集合場所 ● 三つ又ビオトープ沼駐車場
参加費 ● 100円(保険代)
服 装 ● 手拭い、飲み物、軍手
主 催 ● NPO法人荒川の自然を守る会
問合せ ● 048-726-1078(菅間宏子)